

概 要 報 告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 図画工作部会

テーマ 『思いをふくらませる図画工作の授業』を目指して

提案概要

【研究主題】豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

- 題材名と学年 「自分の分身 ～夢や願いをこめて～」 第3学年
「平和を願って」「太古に思いをよせて」 第5学年
「未来にむかって ～いま、ここに、いる。～」 第6学年

○児童の実態とテーマ設定

図工に関する児童の実態としては、得意意識を持つ子どもや、描いたりつくったりすることが好きな子どもがいる一方で、イメージが湧かなかつたり、作品をつくることに消極的であったり、自分の作品を見られることに不安を持っていたりする子どももいる。多くの子の図工への価値基準は、「写実的」＝「上手い」＝「良い」というもので、写実的に描けない子どもは図工への自信や意欲が低いということが子どもと接する中でわかった。また自分の作品に愛着が薄い子どもがいることも課題だと感じた。

学習指導要領では、「作り出す喜びを味わうようにし、豊かな情操を養う」ことを図画工作科の最終的な目標としている。しかし、実態としては前述の通り図工への苦手意識や作品への愛着の薄さ、自由に想像をふくらませていくことの困難さなどの課題がある。それを克服していく一つとして、表面だけでなく内面にも目を向けた表現や鑑賞の授業を充実させ、「思いをふくらませる図画工作の授業」を目指していくことが必要だと考えた。

○実践上の工夫

テーマの「思い」とは作品や作品づくりに対する「自分なりの考え・イメージ・こだわり」とする。さらに「思いをふくらませる」ための具体的な方法とし、表現と鑑賞が相互に絡み合うような単元構成を行った。具体的には以下の4点である。

- A 導入において、題材や素材との出会いを大切にしていく。また美術作品を鑑賞したり、音楽や映像を鑑賞したりする中で、イメージを生みだし、ふくらませていく。
- B 教師や友人と対話したり自己内対話をしたりする中で、イメージをつくりあげていく。
(教師や友人の言葉からの着想・教師や友人のアドバイスを受けての発想展開)
- C つくりながら、想像をふくらます。表現を広げる。
(製作途中で友人の作品づくりを鑑賞する。参考作品等を鑑賞し、話し合う。)
- D 作品完成後に、互いの作品を見あったり、自分の作品を見つめ直したりする。

○成果と課題

<成果>

- ・表現と鑑賞を結びつけることによって、子どもたちのイメージは広がり、こだわりを持って表現することができた。
- ・鑑賞では、感じたことをクラス内で話し合うことが、より一層「ものの見方」を広げて「表し方」を明確にした。
- ・鑑賞を導入だけではなく、多くの場面で取り入れることで児童の豊かな情操を育むことにつながった。

<課題>

- ・「どの作品を」「いつ」「何をねらって」鑑賞していくのか
- ・友達のアドバイスや鑑賞作品に流されすぎないように、常に自分の内面を見つめて製作できるような配慮の工夫

質疑概要

Q1：作品の評価はどのようにしたのか。

A1：作品を表すための表現の工夫で評価した。結果ではなく、作品が出来上がるまでの過程を見とっていった。

Q2：表現する際、どこから自由な表現にしていくのか。

A2：前提として、他人に伝わる表現、自分を表していくための表現ということはおさえている。表現する喜びを感じてほしいという思いで、一人ひとりとの対話を繰り返していった。

Q3：製作途中での友達からのアドバイスについて気をつけたことは。

A3：友達からのアドバイスに流されてしまう子もいた。そういう子については、本人の思いを確認しながら、対話をしていった。

研究協議概要

○鑑賞と表現を結びつけていくことが思いをふくらませていくことにつながったか。

- ・子どもの作品に対する思いを持たせることが大切である。そのために鑑賞、表現のサイクルはとても効果的だと思う。より効果的にするためには、何をねらいに鑑賞するのか、鑑賞のタイミングなど考えていく必要がある。
- ・特に低学年においては、参考作品やお互いの作品を見合うことは大切である。参考作品やお互いの作品を見て参考にしていくことで表現の世界が広がるのではないかと。
- ・イメージをふくらませる手立てとして、低学年のうちからワークシート等でイメージを言葉にしていく活動は大切だと思う。
- ・思いがふくらんだからといって何でもありというわけではない。そのためにも子どもとの対話は必要不可欠である。

○児童の思いやアイデアを生かした指導・支援のあり方について

- ・自由な鑑賞の時間を確保することで、思いを大きくふくらませて「早くやりたい」という気持ちにつながっていくだろう。
- ・子どもの思いを表現していくためには、これまでの技術的な積み重ねがなければならない。

まとめ概要

- ・子どもの思いに寄り添った活動がとても良い。作品から子どもたちの活動の様子が伝わってくる。教師と子どもと一緒に思いをふくらませていくことが大切である。
- ・子どもの表現の世界を広げるためには、低学年のうちから色々な表現があるということを知っておくべきである。そのために子どもの近くに芸術作品があると良い。
- ・技術的な積み重ねがないと、子どもの思いにも限界が出てくる。しっかりとした年間計画が大切である。
- ・図工の実践だけでなく、造形表現を通した子どもとの接し方や教員としてのあり方を教えてくれる提案だった。
- ・卒業記念作品作りの自画像については、6年間の積み重ねで描いた作品であってほしい。
- ・こういった子どもの思いをふくらませていく授業も大切だが、それと同様に技術を磨く授業も大切にしていかなければならない。例えば、立体を描く場合には、現実とは違う描き方をしなければならない。こういったことは教えなければ描けるようになっていかなければならない。子どもの思いを大切にするために下地となる技術力の向上は必要である。
- ・技法をたくさん使えることで表現の幅が広がる。
- ・鑑賞の仕方について、クラス内での鑑賞は人間関係などもからむことがあるので、他のクラスの作品を鑑賞するのも良い。また、鑑賞の観点をしぼることも大切である。